

ど国指定の文化財があるとき、その周辺を重点地区として援助するというものだ。国宝・史跡やその中の整備、公園の場合は公園整備その他の委託費用、パーク＆ライド設備、塀の復原、無電柱化、歴史的風致形成建造物・景観重要建造物等の修理や復原・取得、こういうものを国交省の予算で支援する。文化庁が計画の認定を行い、農林水産省とともに計画のクオリティは確保しつつ、国土交通省の予算で行うという共管の新しい事業だ。ただこれも、行政がきちんと計画を作ってそれが認定される必要がある。ここまでが今すぐやれそうなもので、それほど長期的な制度改革を伴わなくてもできることだ。

世界で議論が始まっている市全域を含めたランドスケープ



景観に配慮して白地となった看板

<歴史的都市景観>

次に、他の国で世界遺産を持っているところで何が行われているかということ。今世界遺産の中で用語として定着し、新しく議論されているのは historic urban landscape という、歴史的都市景観、こういうものを大事にしないといけないということだ。世界遺産の中でかなりきちんと議論されていて、実はあと2年のうちに、ユネスコの勧告

として出すことに決まっている。そのために、歴史的都市景観とは何か、それを守るために何をしないといけないかということについて今議論が進んでいる。そこでまさに鎌倉で、鎌倉の都市全域を含めたランドスケープを議論すること。コアだけでなく、バッファゾーンまで含んで、都市全体が歴史的価値のある都市計画によって造られ、それが現在まで続いていて、統治された都市景観をもたらしているようなまち、まさに鎌倉はこういうところなのだ。これを何とかしなくてはならない。バッファゾーンの外側まで問題になっているのは、高層建築や奇抜なデザイン等。鎌倉の場合、高さ規制ができる、高層ビルというのはないわけだが、バッファゾーンの外の奇抜なデザインや遠景に高層ビルが見えることにより、歴史的景観が台無しになる。3次元的に見るというのが大事だということ。平面でなく空間的に書かれているべきバッファゾーン計画だが、計画図では平面の地図に書かれている。3次元の景観が重要だということが言われるが、それはバッファゾーンの線を超えてしまうかもしれない。それをどう位置づけるかという

問題がある。この問題は世界の様々なところで起きている。

バッファゾーンのデザインのあり方について、2007年の世界遺産委員会で、コントロールできないバッファゾーン外での開発が問題と、指摘されている。そういうところにマネジメントプランを、今建てつつある。生きている都市が抱えている状況というのはそういうことである。2003年の世界遺産委員会でウィーンの中央駅でモダン・アート的な開発計画があがった。これがきっかけになって、建築家や開発事業者も入れて、こういう都市の中に近代的な建物を建てる時に何が許されて何が許されないのかという議論をしようということになり、大きな議論が行われた。日本からは三菱地所も参加した。その時の最終文書がヴィエナ・メモランダム (VIENNA MEMORANDUM ウィーン・メモ) だ。HPで誰でも読むことができる。

平泉は登録延期を機に<景観のマネジメントプラン>を

最後に平泉の登録延期について一言。私も策定委員だったので責任がある。最初に、平泉の世界遺産登録を考えたとき、素晴らしいものをすべて集めた。それをまとめる思想が必要になり、浄土思想でまとめようとした。

具体的には平泉の景色は、まさに浄土の景色じゃないか。西に聖なる山、金鶏山があって、夕日が沈むとき、その手前にある無量光院の阿弥陀如来が夕陽の中に浮かび上がる。西方浄土が見える。藤原三代で町ができる。初代清衡のとき中尊寺ができる。二代基衡、三代秀衡のそれぞれの時代にも、仰ぎ見ると聖なる山があって、お寺がある。中尊寺には藤原四代のミイラがある。中尊寺の聖なる山から、支配者が全て見ているのだ。これこそ浄土の思想を再現した景観であると。

それまでの都市というのは四角い、中国から来た都城、平泉はそれとは全然違う、日本で初めて自然に信仰の意味を持たせ、それをベースとしながら都市を造っている。それが大変ユニークなのだ。しかし9つ候補遺産を選んだのに合わないようなものがある。そこに問題が生じた。

それと平泉の都市のなかに、新しい道路や区画整理された住宅地、商店街があつてこういうのでいいのかというのが、歴史的都市景観の見地から課題となる。これをきちんと変えていく論理が必要である。鎌倉が景観地区でやることを平泉もやるべきである。景観のマネジメントプランが必要だと私は言っている。

また、中尊寺から柳御所にかけて軸線がある。これは平泉の若宮大路のようなものかもしれない。これを今後のまちづくりのなかで尊重するといった方針を明確にすべきではないだろうか。鎌倉も、ちょっと平泉を横目で見ながら考えていくとよい。